

第9回Support Our Kids 復興アンバサダー 海外ホームステイ FRANCE



REPORT



Support  Our Kids

概要

■プログラム内容

日程：2019年6月7日（金）～18日（火）

※5月19日（日）：第1回事前研修 @東北福祉大学

※6月7日（金）：第2回事前研修 @フランス大使館

※6月18日（火）：解散式 @東京国際フランス学園

訪問国：フランス（シャエーニュ村、ル・マン市）

参加者：9名（中学2年～高校2年生）

内容：

ホームステイ

フランス語研修

シャエーニュ村中学校交流

震災プレゼンテーション

日本文化プレゼンテーション（日本茶）

異文化交流

アクティビティ

（テーブルマナー、ペタンク体験、ゴーカート体験、ユネスコ交流、マツダ社交流
ルマン24時間耐久レース観戦）

観光

（シャトー・ド・リュド、ルマン旧市街地）

■協賛・プログラム協力

在日フランス大使館、UNESCO、ACO、シャエーニュ村、ル・マン市、Chez Miton、
College Pierre de Ronsard、Val de Loir Petanque 72、エールフランス航空、
カナルカフェ、トヨタ自動車株式会社、マツダ株式会社、株式会社MZ Racing、
株式会社伊藤園、日仏友好協会さくら、Spark Models、BTP CFA Sarthe、
東京国際フランス学園、有限会社テラモス（敬称略・五十音順）

■トータルプロデュース 寺田 陽次郎

※その他、チャリティにご参加いただいた皆様、ご寄付を頂いた皆様はじめ、
多くの皆様のご支援ご協力を頂いております。

ご支援、ご協力をいただきました皆様、ありがとうございました。

プログラム

日	曜	AM	PM	備考
7日	金	東北⇒東京移動	12:00～16:45 事前研修会@仏大使館 16:45～ アパホテル京成成田駅前移動	ホテル泊
8日	土	06:40 ホテル発 10:35 成田発⇒AF275便⇒パリ	16:10 パリ着 (CDG2) ジュリーさん & ジョージさん合流 ルマン移動(夕食:マクドナルド)	ホテル泊@ルマン
9日	日	10:30 ルマン発、春子さん合流 ⇒リュド城見学⇒シャエーニュ村 (昼食:春子さんとピクニック)	16:30 レストラン「ミトン」着 ⇒ウエルカムパーティー ⇒各ホストファミリーへ	ホームステイ
10日	月	09:00～12:00 フランス語授業 (昼食:各ファミリー)	各ホストファミリーと自由行動 (夕食:各ファミリー)	ホームステイ
11日	火	09:00～11:00 フランス語授業 12:00 ランチ@レストラン「ミトン」 テーブルマナー研修(講師:尚子さん)	14:00～16:00 地元中学校と文化交流 と震災プレゼンテーション (夕食:各ファミリー)	ファミリーと買物(翌日の準備) ホームステイ
12日	水	09:00～11:00 フランス語授業 (昼食:ミトン)	14:00～16:00 スポーツ交流(地元ペタンククラブ) 夕方 ホストファミリーと料理 20:30 夕食会	ホームステイ
13日	木	09:00 シャエーニュ村⇒ルマン移動 11:00 ルマン宿舎(ルマンBTP専門学校)着 12:00 ランチ@専門学校	15:00～17:00 ゴーカート体験 18:00 夕食@専門学校 専門学校生交流、ミーティング	専門学校寮泊
14日	金	コインランドリー 12:00 マツダ社交会会@高柳 震災プレゼンテーション	ドライバーズパレード見学 (夕食:市内レストラン)	専門学校寮泊
15日	土	朝市見学・旧市街散策(大聖堂等)⇒ 10:00トヨタパドック 11:00 UNESCOルソー局長交流 震災プレゼンテーション	SPARKブース見学 Le Mans 24 観戦(スタンド34) (夕食:春子さん宅)	専門学校寮泊
16日	日	Le Mans 24 観戦 (観戦場所:スタンド34) (昼食:サーキット場)	フェアウェルディナーパーティー (カンパニールホテルにて) *ホストファミリーご招待	専門学校寮泊
17日	月	08:30 ルマン⇒パリ移動	13:30 パリ発⇒AF276⇒成田	機内泊
18日	火	08:25 成田着 09:59 成田空港第1ターミナル駅発(SKY8号) 11:05 新板橋駅着	11:20 東京国際フランス学園着 11:40 解散式 14:00 終了、解散	

事前研修

日時：5月19日（日）12:00～16:00

会場：東北福祉大学



出発式

日時：6月7日（金）12:00～17:00

会場：在日フランス大使館



- ・開会あいさつ
- ・支援者ご紹介
- ・支援者代表挨拶
- ・大使館ツアー
- ・生徒自己紹介、課題発表
- ・ご挨拶：ジャン＝バティスト・ルセック様
(フランス大使館 公使)
- ・現地プログラムについて
 - ①スケジュール
 - ②MAZDA/Le Mans 24について
- ・日本文化を伝える～お茶の心～
- ・生徒グループ目標発表
- ・ケーススタディ／フランスでの危機管理
- ・海外保険について
- ・出発宣言



今日は、とても得るものが多い一日でした。
平野さんからの話し方についての指導が最も心に残っています。
「目立とう精神」でいくこと、「積極的なコミュニケーション」をとること、
「リスペクト」をすることをするとさらに話し方が良くなると思いました。
私もフランス人の方と仲良くなりたいのでこれらを実践し、私の存在を印象
づけたいです。



出発式の中で、非常に大事なことを再確認した。それは、支援者の方々が、
本気で私たちを応援、支援していただいているということだ。前々から、わかっていた
つもりだったが、今回の出発式を通して、支援者の方々に対して、もっと本気で、もっ
と積極的に行動しなければならないと強く思った。
このように、思ったのを忘れずに、フランスでは、もっともっと積極的に行動したい。



チーム目標



チーム名 "ENGINE"について

私たちは、「知ること」「伝えること」「前進すること」を目標としてフランスで過ごしていきます。

まず、「知ること」は、震災のことやフランスにいただいた支援について知る。

「伝えること」は、自分の震災に対する考えや震災のこと、また、フランスにして頂いた支援に対して、感謝を伝える。

「前進すること」は、フランスで積極的にコミュニケーションを取ったり、また、帰国後にフランスでの様々な経験を家族や友人をはじめとしてシェアをたくさんする。

これをするには、ENGINEのように前に進む、原動力が必要です。その原動力を忘れずに、積極的に現地で過ごそうという意味で、ENGINEと名付けました。

出国



東京を出発し、フランスに到着しました。その中でたくさんの出会いと発見がありました。私たちSupport Our Kidsを支援してくださる方達との出会いです。Support Our Kids専用のカウンターを設けて下さったエールフランス航空の方々、ホームステイ資金を集めてくださっているタリーズコーヒージャパン様、フランス語や英語の翻訳をしてくださるジュリーさんや、ジョージさんに会い、大きな刺激になりました。



私たちの経験は本当にたくさんの方々の支援によって成り立っています。感謝を忘れず、ひとつでも多くの発見ができるようひとつひとつのことに丁寧に取り組みます。

11時間弱にわたる空の旅では、昨日の事前研修会のことを思いだし、これから始まるフランスステイへのワクワクが高まっていました。

一方で、「英語が通じなかったらどうしよう」、「ホストファミリーの方々は優しいのか」など様々な不安もあります。自分のベストを尽くし出来る限り積極的に行動したいです。



シャトー・ド・リュド見学



私はフランスの歴史に興味があり、特にフランス革命のあたりが好きです。
中世の中国を真似た豪華絢爛な大広間や近代の寝室、お伽話のような総立った図書館に心惹かれました。



シャエーニュ村 6月9日～6月12日

【ウェルカムパーティー】ホストファミリーと対面

今日は、待ちに待ったホストファミリーとの初対面。
とても優しいご家族で心から嬉しかった。

家庭に入って驚いたことは2つ。

1、フランスの家にもバスケットゴールがあること。

2、主食が本当にパンだったこと。

今日から、「指さし会話帳」のフランス語をたくさん覚え、

自分から積極的に話しかけていきたい。

そして、第2の家族と言えるくらい、ホストファミリーとの絆を深めたい。



【フランス語レッスン】



今日はフランス語の授業がありました。
今日の日付、曜日から始まり自己紹介までできるようになりました。
フランス語は発音が独特で難しいですが、先生方が優しく教えてくださいました。
難しい分、文の意味が分かったときとても嬉しいです。分からないことは積極的に
聞きながら明日もフランス語のレッスンを受けたいです。



【PETANQUE (ペタンク) 体験】



ペタンクはフランスの伝統的な野外球技で100年以上の歴史を持つそうです。子どもの年齢は7歳くらいから15歳くらいまででした。地元の子どもたちはペタンクがとても上手で、驚きました。
ペタンクで使用する球は、金属で出来ていてとても重いです。今まで金属の球を投げた経験がなかったので、コントロールが非常に難しかったです🙄ですが、フランスの皆さんはとても優しくかったので、楽しくプレイできました！



【テーブルマナー研修】



お昼はフランスのテーブルマナーを、尚子さんのお料理を食べながら勉強しました。食事中のフォーク、ナイフの位置は知っていましたが、各皿ごとにフォークとナイフを変えるということは知りませんでした。日本でフランス料理を食べる機会があまりないので、非常に良い社会勉強となった気がします。尚子さんのお料理は本当に絶品で、毎日食べたいと思いました

【現地中学校「College Pierre de Ronsard」訪問】



日本文化を伝えることで自分自身が日本の魅力を改めて発見することに繋がりました。また、地元中学校の生徒たちは異文化交流を楽しむ、異文化を積極的に受け入れる姿勢を持っていて、これからグローバル化の進む私たちに無くてはならない姿と感じました。そして震災プレゼンテーションでは、私たちが最も伝えたい震災の記憶や支援への感謝、これからの東北についてを伝えることが出来ず、まだまだ改善の余地があると思いました。「伝える」意識の持ちようによって、これからどんどん変わることが出来ると思います。今一度、全員で「復興アンバサダー」としての役割を見つめ直し、時間を有意義に使い、未来を無駄にしないよう役割を果たしていきたいです。



震災プレゼンでは、その前までの時間配分がうまくできずに話したいことを話せずに終わってしまった。そのため、地元の学生に伝えられることができたのか、微妙になってしまった。このようなことから、時間配分を気にしたり、時間がなくなったときのための対処法を用いるなど、臨機応変の対応が必要だということが知れた。次の震災プレゼンでは、伝えたいことを一人ひとりが伝えられるように用意していきたい。

【ホストファミリーと夕食会】



ホストファミリーの家を出る前の夕食会を行いました。
各家庭で夕食を一緒に作る中で、フランス語や英語を教えもらったり日本語を教えたり
してお互いの言語を学び合う、貴重な体験をすることが出来ました。
コミュニケーションをとりながらお互いの国について勉強することはとても素晴らしいこ
とだと思います。
常に自分から学ぶ姿勢をもつことで、覚えられるフランス語が一語、一語と増えていくこ
とがとても楽しいです。



ホストファミリーとクレープを作った。
日本とは違うトンボの形のような道具を使って、生地をフライパンの上で伸ばした。
完成したクレープにクリームはのせず、ジャムやシロップを乗せて巻いて食べた。
ホストファミリーと歌を歌いながら楽しく料理でき、本当にいい時間になった。
シャエーニュ村最後の夜、感謝と共にとても楽しく過ごすことが出来た。



ルマン市 6月13日～6月17日

【ゴーカート体験】



ゴーカート体験では、最初はとっても緊張しました！ブレーキとアクセルの説明を受けただけだったから、不安でした。しかし、始まるとものを操ることの楽しさを実感でき、とても楽しかったです。風をきってハンドル操作をするのが気持ちよかったです。学校で習っている物理をいかしてこの車を作っていると考えたら、身近なところからものづくりは始まっているんだなあと思うようになりました。結果は3位でしたが、2回戦目からは友だちと協力して1番をたおそうとしていたからとても楽しかったです。複数人で協力して何かを攻略しようとする過程の面白さを知りました。また、ル・マン式スタートを経験出来たのはとてもうれしかったです。



【マツダ社交流会】



MAZDAのみなさんの前でプレゼンをして、「失敗」の形に終わってしまいましたが沢山の「発見」がありました。特に、プレゼンテーションは誰に対してやるのかを考えることが最も大切だということです。何を伝えたいのかだけではなく、どうしたら相手に伝わるかが最も大切なことだと思いました。

最終日にある最後のプレゼンテーションは、この反省を活かして絶対に絶対に成功させます。

今日はMAZDA様主催のお食事会でした。メニューはカツカレー、味噌汁など日本食で、久しぶりのお米が本当に美味しかったです。フランスのご飯も美味しいけれど、同じくらい母国のご飯の美味しさを感じました。



【ルマン旧市街地散策】



【ドライバースパレード見学】



【ラロ春子さんのお宅で食事会】



【ル・マン24時間耐久レース観戦】



ル・マン24時間耐久レースをスタンド席で観戦できること自体が本当に貴重なことなのに、日本のチームが1位2位でフィニッシュするところを見て本当に感無量でした。異国の地で聴く国家、見る国旗は日本人であることを強く感じさせました。大人が本気で取り組んで戦う姿は、私たちが倣うべき姿だと思います。



寺田さんがエンジニアの方々の話を聞いてこれまではレースはドライバー個人の能力が重要視されていたのですがドライバーとエンジニアの方々が一体になってレースに臨むことの方が大切なんだということに気づきました。

Le Mans耐久レースでは日本が1、2フィニッシュを果たした時の感動が忘れられません。あの場所で日本の国歌を聞いて歌えたことに大きな誇りと感動を感じました。そして、

その後のチーム同士で泣きながら抱擁している大人たちを見て、プライドを持って挑戦し続けている大人は本当にかっこいいなと思いました。私もいつか大人になっても彼らのように挑戦し続けることを忘れないでいきたいです。



【UNESCO Le Saux局長と面会】



UNESCOは世界遺産が有名だけど、肝心なのはその根本にある文化的な意味を考えると、自分を愛し自分で自己を管理すること、人を助けて平和を創りあげる愛が大切だということに強く心打たれました。私たち側からも少しプレゼンをして将来の夢についてお話をさせていただきました。私は先生になって未来の子どもたちの為に役に立ちたい、それが東北の復興につながるのではないかと語ったら、私も先生だった。是非って貢献してほしい、とおっしゃっていただきました。自分の夢を心から応援していただいたことがとても嬉しかったです。

【Spark Modelsブース訪問】



【Toyota Gazoo Racingパドック訪問】



【フェアウェルパーティー】



ホストファミリーとひとつ約束をしました。
「フランス語を勉強して、必ずまた会いに行く」という約束です。
ホストファミリーがフランス語を日常的に教えてくれて、私は他言語を学びそれを使ってコミュニケーションをとる面白さを知ることができました。
そしてそれが将来世界に出て仕事をしようと決心できたひとつのきっかけにもなりました。
それだけでなくホストファミリーの温かさに触れ、もう一度会いたいと強く思ったこともあり、この約束を交わしました。



今日はこの2週間お世話になった方々を招いたフェアウェルディナーパーティーが開かれました。
特に私たちはこのパーティーにかけける想いは本当に強かったと思います。この12日間、ホームステイ以外、ほとんどの時間を仲間と共に過ごしてきました。楽しいことも本当にたくさんありましたが意見が衝突したり、チームがまとまらなかったり、それまでのプレゼンが失敗したり…最後の最後までチームの一人一人が「このままでいいのか」と自問自答していたと思います。
だからこそ最後のプレゼンで感じた感動は忘れられません。この12日間の思い出や、このプログラムで出会ったさまざま人の笑顔が頭の中を駆け巡りました。メンバー9人でたくさん笑って、泣いて、過ごした12日間。
多くの方々の支援の輪によってできたこのフランスステイは人の本当の優しさに触れて、最後は温かい気持ちでいっぱいになりました。本当にありがとうございました。

解散式

日時：6月18日（火） 11:30～12:00

会場：東京国際フランス学園



行きたい、行こうと思い、一步を踏み出したから広い世界に出ることができた。きっと何かを始めるのにも、最初は小さな一歩からだろう。そこからどんどん誰かの助けを借り、大きな一歩となっていく。そして達成するときには、たくさんの支援と愛と笑顔に囲まれていたことに気づく。私はそんな体験をした。はじめの一歩を応援してくれた家族のみんな、共に歩んでくれたチームのみんな、ずっと側で支えてくださった引率の方々、多大なる支援をしてくださった皆様、本当にありがとうございました！！



目標設定と振り返り



【MIRAIMA DIARY】

この旅は、自分自身と、東北の明るい未来を自分たちの手で切り拓く為の旅。
「未来」とは「今」の集積。その「今」を毎日大切に過ごすために、一日の終わりに
「MIRAIMA DIARY」にその日一番自分にインパクトを与えた出来事と、
その出来事からの気づきや学びを書き留めました。

【Career Vision Sheet】

このステイを通して、なりたい自分に近づけるように、また日々のプログラムを、
自身の目標や夢とリンクさせて考えるように、毎日、自分の夢を書き記しました。
このステイを通して従前より描いていた夢がより確固たるものになったメンバー、
そして途中で夢が変わる経験をしたメンバーも。毎日目標を意識することで、
有意義な10日間を過ごすことが出来ました。

帰国後レポート

大場 さくら（宮城県東松島市出身／高校1年生）



私はこのステイで変化したことが、特に2つあります。

1つ目は「将来の夢」についてです。私はこのプログラムで「新聞記者になりたい」という夢ができました。私は3年前震災関係で取材を受け、記事にさせていただいたことがあります。その新聞記者の女性は私の言葉にできなかった想いまで汲み取って言葉にしてくださり、その新聞を読んだ時は本当に感動しましたし、大きな勇気をもらいました。それから、新聞記者に密かに憧れていたものの学力の面などから諦めてしまっていました。

しかし、このフランスで過ごした12日間は「私にしかできないことはなんだろう」と考える機会が多くあり、その中で私にしかできないことは新聞記者になって自分にしか書けない記事を書くことなのだと強く思うようになりました。また、引率のみなさんの自分にしかできない仕事をしている姿とLe Mans耐久レースで挑戦し続ける大人達に大きな刺激を受けました。私もみなさんのような大人になっても夢を持って挑戦し続けられる仕事をしていきたいと思います。そして、もっともっと広い世界を見て、自分の夢をこれからさらにアップデートしていけたらいいと思います！

そして、もう一つ変化したことがあります。それは自分の震災体験を客観的に見られるようになったことです。

「ひとりじゃないよ」

SOKのホームページで初めてこの言葉を見たときに、どきとしたことを覚えています。

8年前、津波によって家が全壊したことにより我が家はすぐに内陸部に引っ越しました。そのため、私は今まで自分の震災体験を話すことを避けて、震災の話題になっても笑ってごまかして自分の記憶から逃げるようになっていました。テレビで復興についての明るいニュースを見るたびに、私は当時の気持ちのまま変わっていないのに…と誰にも言えない孤独感を感じていました。

こんな自分を変えたいと思ってフランスステイに臨みました。覚悟はしていたものの自分の記憶と向き合った10日間は、やっぱり辛くて泣いてしまったこともありました。そんな時でも隣で話を聞いてくれて、一緒に泣いて、大丈夫だよってしてくれる人がいたこと。そして、弱い自分を受け入れて、本気で向き合ってくれるENGINEの仲間がいたこと。彼らが真っ直ぐに向き合ってくれたから私はひとりじゃないんだって気づくことができました。今はTシャツに書いてある「ひとりじゃないよ」の言葉が何よりも大好きです！これからまた辛いことにぶつかったときまたこの言葉を思い出してこれからも前へ進んでいきたいと思います。

そして、最後にこのステイに関わっていただいている方々の想いを知った時、震災当時感じたような「人の本当の優しさ」を思い出して涙が止まらなくなりました。沢山の人の真心に包まれたこのステイは今までに経験したことのない大きな感動と喜びがありました。このプログラムで学んだことはすべて私の自信となりENGINE になっています！私たちを全力で応援してくれる人に囲まれて、最高の仲間に出会えて本当に本当に幸せでした！ありがとうございました！！

帰国後レポート

菊田 龍雅（福島県いわき市出身／中学3年生）



僕はおいしい料理や、豊かな自然で有名なフランスに行かせていただきました。

今回の研修は面白い仲間や多くの支店者の方々に支えられとても充実したものとなり自分自身の成長を感じることができました。

そもそもなぜ僕がこのプログラムを志望したのかという理由は主に二つあります。一つ目の理由はこの次世代のリーダー（復興アンバサダー）を育成することを目的としたプログラムがあることを知り自分も東北の未来のためになにかをしたい、そのために異文化の体験や非日常的なプログラムを行うことで自身のレベルアップを図りたかったからです。そしてもう一つの理由は以前このプログラムで海外に派遣された知人が帰国後にボランティアや、募金活動を行うようになり自分も知人のように誰かのために行動できる人になりたいと思ったからです。

次に僕が事前研修の時に立てた目標についてです。僕は英語で話している途中で話そうとしていたことを忘れてうので英会話に対する苦手意識をなくそうと思い、今回のフランスステイでは【海外の人とたくさん話す】ということを目標立てて行動しました。町中の人には怖気づいて話しかけることができませんでした。ホストファミリーを中心にたくさん会話をしました。完璧に話せているわけではなかったですが楽しく会話することができたので英語への苦手意識が薄まりました。

続いて、僕がこのプログラムの中で感じたことについて話します。僕がこのプログラムで最も感じたことは海外の人は優しいということと、英語でのコミュニケーションが楽しかったことです。僕は英語が苦手なので現地ですでちゃんとコミュニケーションがとれるかが不安でホストファミリーとの会話が楽しいとは思っていませんでした。しかし、ホストファミリーの方が僕のカタコトな英語を必死に理解しようとしてくださったり、ジェスチャーを用いて説明してくださり会話がとても楽しかったです。最初のウェルカムパーティーでは自分の話した英文が相手に通じた時や相手の話していることが分かった時に泣きそうなくらい嬉しくて英語が好きになりました。このようにこれまで嫌いだったことでも自分の【挑戦】しようという気持ち一つで好きになれるということを学びました。

続いて、僕がホームステイで気づいたことについて話します。僕はこれまでレースの勝敗がレーサーの技量によって決まっていたと思っていました。しかし、寺田さんから「僕たちレーサーはエンジニアの人たちがいなかったら走れない」というお話を聞きその考えが間違っているということに気づきました。また実際にレースでピット内で整備をしているところを見てチームで必要とされるのは個人の能力ではなく団結力だと思いました。これからチームで活動するときはチームメイトに気を配って団結力をより一層高めていきたいです。

最後に今回のフランスステイでは貴重な体験をさせていただきました。僕たちに期待していただいたたくさんの方々、本当にありがとうございました。これからは飽きたり嫌になったりしないように精いっぱい頑張っていきます！